Tsukuba Psychological Research
1997, **19**, 7-19

中学・高校生の自己決定に関する調査

筑波大学心理学系　新井　邦二郎

An investigation of self-determination experience of junior and senior high school pupils

Kunijiro Arai *(Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan)*

This study investigated the self-determination experience of junior and senior high school pupils enrolled in first grade to third grade. The situations of self-determination experience investigated by questionnaire were arising, initiating home study, and determining class duty. The main results were as follows: (1) Self-determination of initiating home study and determining class duty were at a high level through all grades of junior and senior high school, while self-determination of arising was low for all grades. (2) Gender differences of self-determination level were not found in junior and senior high school pupils.

Key words: self-determination, junior and senior high school pupils, arising, initiating home study, determining class duty

目　的

前報告(新井，1996)では，小学１年生～６年生を対象にして「自己決定の経験」の実態を調査した．小学１年生～３年生には，その保護者に回答してもらい，小学４年生～６年生には児童に回答してもらった．質問紙で取り上げた自己決定の場面は，小学１年生～３年生で「朝の起床」「起床後のトイレ」「朝の着替え」「朝の食事」「朝身に付ける服やクツシタの選択」「服やクツシタの購入」「家での学習の開始」「家での学習内容」「家での学習時間」「学習塾」「習いごと」の11場面であり，小学４年生～６年生では，それらに加えて「クラブ活動の選択」「学級の係り」の13場面であった．そこでの主な結果は，「朝の起床」「服やクツシタの購入」「家での学習の開始」「学習塾」「習いごと」などで，小学１年生～６年生を通して自己決定の経験の低いことがわかった．また，ほとんどの場面で男子の自己決定が女子よりも低いことも見い出された．

今回は，中学生と高校生の自己決定の調査を報告する．精神的自立を達成しつつある中学生・高校生は，小学生とは異なり，多くの場面で自己決定を行っていると考えられる．そこで，調査を「朝の起床」「家での学習の開始」「学級の係りの選出」の３場面に限定し，自己決定の実態と，さらにそれらの場面で自己決定することが好きか否か，自己決定することが良いことか悪いことかなどの意識を調査し，中学生と高校生の自己決定の心理的側面を明らかにしたい．

方　法

被調査者　首都圏内の公立中学校Ａ，Ｂの２校の生徒．Ａ校１年109名(男子54名，女子55名)，２年109名(男子50名，女子59名)，３年95名(男子44名，女子51名)，Ｂ校１年67名(男子35名，女子32名)，２年76名(男子34名，女子42名)，３年77名(男子40名，女子37名)，合計533名の生徒から回答を得た．同じく首都圏内の高校１校の生徒．１年164名(男子79名，女子85名)，２年92名(男子37名，女子55名)，３年81名(男子40名，女子41名)，合計377名の生徒から有効な回答を得た．なお，この高校は卒業生の約半数が進学，約半数が就職をしている公立高校である．

質問紙の内容　中学生・高校生の日常生活および学習の場面において重要と思われるａ「朝の起床」，ｂ「家での学習の開始」，ｃ「学級の係りの選出」

の3つの場面において生徒がどの程度，自己決定の経験を有しているか否かについて尋ねた．また，それぞれの場面で「自己決定が好きか否か」「自己決定することが良いか悪いか」の意識調査も行った．なお同時に，きょうだい位置(一人っ子，末子，中間子，長子)や母親の仕事(家の外の仕事に従事，家の中の仕事に従事，仕事を有していない)，父親の生活の様子(食事が毎日家族と一緒か否か)等も尋ねたが，クロス分析した結果，いずれの条件も主要な結果と関連を持つことがなかったので，結果の記述の箇所では触れないことにする．なお，具体的な質問の仕方は，次の結果のところを参照．

調査年月　1994年10月，11月

手続き　学級担任の教師から各生徒に配布し，その場で記入後，学級担任の教師が回収した．

結　果

1）朝の起床の自己決定

朝の起床のとき，あなたはどのように起きていますか

①ほとんどいつも，家の人(たとえばお母さんやお父さん)に起こされて，起きています．
これに○をつけた人に聞きます．
＊いつも，だいたい何回ぐらい，起こされて起きますか？
(　　)ぐらい．
＊また家の人は，どのような言葉で，あなたを起こしますか？
家の人の言葉(　　)

②自分から起きることも，家の人に起こされて起きることも，半分ぐらいです．

③ほとんどいつも，自分から起きようと思って，朝，起きています．

Table 1は，上の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 1　朝の起床の自己決定の学年別結果：人数と(%)

	①家の人に起こされる	②半々である	③自分から起きる
中1年	50 (28.7)	87 (50.0)	37 (21.3)
中2年	69 (37.3)	76 (41.1)	40 (21.6)
中3年	55 (32.0)	75 (43.6)	42 (24.4)
高1年	52 (31.7)	58 (35.4)	54 (32.9)
高2年	32 (35.2)	31 (34.1)	28 (30.8)
高3年	21 (25.9)	36 (44.4)	24 (29.6)

$x^2=16.68$　$df=10$　$p>0.05$　ただし$p<0.10$

ア「家の人に起こされる」生徒は，中学生で約30～40%，高校生でも約25～35%である．

イ「自分から起きる」生徒は，前調査の小学生の結果より増えているものの，その割合は中学生で約20～25%，高校生で約30%にすぎない．

ウ「家の人に起こされるのと自分から起きるのが半分ぐらいである」生徒は，中学・高校の各学年とも多く，約35～50%である．

Table 2は，家の人から何回起こされるかの学年別結果である．この表から次のことがわかる．

Table 2　朝の起床で起こされる回数の学年別結果：人数

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回～
中1年	13	14	12	1	2	0	0	0
中2年	19	22	13	3	2	2	0	1
中3年	12	14	12	2	4	0	1	1
高1年	10	13	11	2	2	2	0	2
高2年	11	4	4	2	2	1	0	1
高3年	7	6	3	0	1	0	0	2

ア　中学・高校の各学年とも起こされる回数は1回～3回までが多い．

イ　各学年とも4回以上はそれほど多くないが，起こされる回数の多い生徒が各学年ごとに確実にいる．

Table 3は，生徒を起こす際の家の人の言葉を整理したものである．この表から次のことがわかる．

Table 3　朝起こす時の家の人の言葉：頻数と(%)

＜中学生＞	
起きなさい	54 (66.7)
○時よ	13 (16.0)
名前を呼ぶ	6 (7.4)
合図をする	3 (3.7)
遅刻するよ(ぞ)	3 (3.7)
おはよう！	1 (1.2)
御飯よ	1 (1.2)
＜高校生＞	
起きなさい	40 (59.7)
名前を呼ぶ	11 (16.4)
○時よ	7 (10.4)
遅刻するよ(ぞ)	4 (5.9)
起きる時間だよ	3 (4.5)
その他	2 (2.9)

ア　中学・高校生とも家の人の「起きなさい」という指示・命令口調の言葉が圧倒的に多い．

イ　「名前を呼ぶ」「○時よ」といった生徒に起床の自己決定を実質的にゆだねるような言葉は，中学生・高校生とも30％程度にすぎない．

2）朝の起床の自己決定の選好

あなたは，朝，起きるとき，どちらのほうが好きですか．
①家の人に起こされて，起きるほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分から起きようと思って，起きるほうがすきです．
　そのわけ（　　）

Table 4は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 4　朝の起床の自己決定の選好の学年別結果：人数と（％）

	①家の人に起こされるのが好き	②自分から起きるのが好き
中1年	26 (14.9)	148 (85.1)
中2年	29 (15.8)	155 (84.2)
中3年	27 (15.9)	143 (84.1)
高1年	29 (18.0)	132 (82.0)
高2年	18 (20.0)	72 (80.0)
高3年	19 (23.5)	62 (76.5)

$x^2=3.89$　$df=5$　$p>0.05$

ア　中学1～3年では，「自分から起きるほうが好き」と答える生徒は，約85％であるが，「家の人に起こされるほうが好き」と答える生徒も，各学年に約15％いる．

イ　高校生では，「自分から起きるほうが好き」と答える生徒は学年とともに少し減り，高校3年では約75％である．他方，「家の人に起こされるほうが好き」と答える生徒は少し増え，高校3年では約25％である．自分の「自己決定の現状」に選好感情も合わせている様子が読み取れる．

前問のTable 1の結果と比較すると，「自分から起きる」生徒は少数であったが，「自分が起きるほうが好き」な生徒は圧倒的に多く，そのギャップは中学・高校の各学年とも大きい．

Table 5は，「自分から起きるのが好き」の理由を整理したものである．中学では「自分で起きたほうが気分がよい」「うるさく言われないで済むから」「人に起こされるのが嫌」「起きたい時に起きられるから」などが上位を占めている．高校でも「自分で起きると気分がいい」「家族にうるさく言われなくても済む」「人に起こされたくない」などが上位を占めていて，自分から起きることの爽やかさや行動の自由，自立を求める気持ちがその主な理由になっていることがわかる．

Table 5　朝の起床で「自分から起きるのが好き」の理由：頻度（3以上）

＜中学生＞	
気分がよい	103
うるさいと言われなくて済む	14
人に起こされるのが嫌	21
起きたいときに起きられる	19
ゆとりができる	8
いつまでも親に起こされたくない	7
人に迷惑をかけない	4
自分で起きると気合いが入る	4
自然に起きてしまう	4
習慣が身につく	3
自立ができる	3
自分で起きなければ遅刻をするから	3
その他	33
＜高校生＞	
気分（気持ち）がいい	71
うるさく言われなくて済む	25
人に起こされたくない	24
好きな時間に起きられる	16
人に迷惑をかけずに済む	16
習慣になるから	9
良いことだから	4
その他	11

Table 6は，反対に「家の人に起こされるのが好き」の理由を整理したものである．中学では「自分では起きられないから」「楽だから」「時間に間に合う」「ぎりぎりまで寝ていられる」などが上位を占め，他方高校でも同じような理由がみられ，自分から起床することの効力感の不足や親への依存心を内容とするものが目立つ．

3）朝の起床の自己決定の良し悪し

あなたは，朝，起きるとき，どちらのほうが良いことと思いますか．
①家の人に起こされて，起きるほうが良いことと思います．
　そのわけ（　　）
②自分から起きようと思って，起きるほうが良いことと思います．
　そのわけ（　　）

Table 6　朝の起床で「家の人から起こされるのが好き」の理由：頻度

＜中学生＞	
自分では起きれないから	17
楽だから	8
ぎりぎりまで寝ていられるから	6
時計を気にしなくて済むから	3
目覚し時計をセットしなくて済むから	3
気遣っているのがわかるから	1
特になし	1
＜高校生＞	
自分では起きれない	20
ぎりぎりまで寝ていられるから	8
楽だから	7
面倒だから	6
なんとなく	5
目覚し時計をセットしなくて済むから	3
安心して眠れる	3
遅刻しないで済む	2
遅刻したら家族の責任にできる	1
家族的気分を味わえる	1

Table 7は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 7　朝の起床の自己決定の良し悪しの学年別結果：人数と(%)

	①家の人に起こされるのが良い	②自分から起きるのが良い
中1年	7 (4.0)	166 (96.0)
中2年	5 (2.7)	178 (97.3)
中3年	7 (4.1)	162 (95.9)
高1年	9 (5.5)	154 (94.5)
高2年	6 (6.7)	84 (93.3)
高3年	7 (8.8)	73 (91.3)

$x^2=5.71$　$df=5$　$p>0.05$

ア　中学1～3年では，「自分から起きるほうが良い」と答える生徒は，約95%を越えているが，「家の人に起こされるほうが良い」と答える生徒も，各学年に数パーセントいる．

イ　高校生では，「自分から起きるほうが良い」と答える生徒は学年とともに少し減り，高校3年では約90%である．他方，「家の人に起こされるほうが良い」と答える生徒は少し増え，高校3年では約9%である．この場面でも，自分の「自己決定の現状」に物事の良し悪しの判断を合わせている様子が読み取れる．

Table 8は，「自分から起きるのが良い」の理由を整理したものである．中学では「将来困らない(自立できる)から」「もう子どもではないから」「家の人に迷惑をかけない」「将来困らないから」「気分がよい」などが上位を占めている．高校でも「自立できるから」「将来のためだから」「気持ちがいい」「人に頼る癖がつくから」「家族が大変だから」などが上位を占めていて，青年前期の自立や将来展望の観点から「自分から起きるのが良い」とするものが主な理由になっていることがわかる．

Table 8　朝の起床で「自分から起きるのが良い」の理由：頻度(3以上)

＜中学生＞	
将来困らないから(自立できるから)	85
もう子どもではないから	45
家の人に迷惑をかけない	44
気分がいい	22
習慣が身につく	16
自分のためになる	10
規則正しくなる・けじめがつく	9
うるさく言われず済む	6
起きたい時に起きられる	5
その他	11
特になし・なんとなく	24
＜高校生＞	
将来(自立)のため	90
気分がいい・すっきりする	24
習慣をつける必要がある	9
家族に迷惑	8
あたりまえ	7
好きな時間に起きれる	5
その他	5
特になし・なんとなく	11

Table 9は，「家の人に起こされるのが良い」の理由を整理したものである．中学では「時間どおりに起きられるから」「楽だから」「朝御飯の用意ができているから」などであり，他方高校では「遅刻しない・寝過ごさない」「自分から起きなくても済む」「家族が早くおきるから」「小さいときから起こしてもらっているから」などの理由がみられる．

4)家での学習の開始の自己決定

家で勉強を始めるときは，どのようにしていますか．

①だいたいいつも，家の人から言われて勉強を始めます．

②家の人から言われて始めるのと，自分から始めるのとが，半分ぐらいです．
③だいたいいつも，自分から始めようと思って，勉強を始めます．

Table 9　朝の起床で「家の人に起こされるのが良い」の理由：頻度

＜中学生＞	
時間どおりに起きれるから	9
楽だから	2
朝御飯の用意がちゃんとできているから	2
特になし	1
＜高校生＞	
遅刻しない・寝過ごさない	5
自分から起きなくて済む	2
家族が早く起きるから	1
親が先に起きることは良いこと	1
朝しか親に声を掛けられないから	1
小さいときから起こしてもらっている	1
安心できる	1
面倒だから	1

Table 10は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア「家の人から言われて勉強を始める」生徒は中学1年・2年では約15％であるが，高校受験の直前学年の中学3年では減少し，約5％である．高校では各学年とも，約10％になっている．

イ「自分から勉強を始める」生徒は，中学では学年が上がるにつれて増え，中学1年では約30％であったが，中学2年で約40％，中学3年では約60％になっている．高校では，高校1年で約50％であるが，高校2年で約65％，高校3年では約70％に上がっている．

Table 10　家での勉強の開始の自己決定の学年別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてする	②半々である	③自分から開始する
中1年	27 (15.6)	90 (51.6)	57 (32.8)
中2年	32 (17.5)	76 (41.5)	75 (41.0)
中3年	8 (4.7)	63 (37.1)	99 (58.2)
高1年	20 (12.9)	61 (39.4)	74 (47.7)
高2年	10 (11.2)	22 (24.7)	57 (64.0)
高3年	8 (10.3)	14 (17.9)	56 (71.8)

$x^2=66.05$　$df=10$　$p<0.01$

5）家での学習の開始の自己決定の選好

家で勉強を始めるときは，どちらのほうが好きですか．
①家の人に言われて勉強を始めるほうが好きです．
　そのわけ(　　)
②自分から始めようと思って，勉強を始めるほうが好きです．
　そのわけ(　　)

Table 11は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 11　家での勉強の開始の自己決定の選好の学年別結果：人数と(％)

	①家の人に言われてするのが好き	②自分から開始するのが好き
中1年	9 (5.3)	161 (94.7)
中2年	9 (4.9)	173 (95.1)
中3年	3 (1.8)	168 (98.2)
高1年	10 (6.2)	151 (93.8)
高2年	6 (6.7)	83 (93.3)
高3年	2 (2.5)	77 (97.5)

$x^2=6.07$　$df=5$　$p>0.05$

ア「家の人から言われて勉強を始めるのが好きな」生徒は中学・高校とも極めて少なく，全体として各学年とも約5％であるが，特に中学3年，高校3年ではさらに少なく，約2％となっている．

イ　他方，「自分から勉強を始めるのが好きな」生徒は，学年によって大きな変わりはないが，中学・高校とも約95％になっている．

Table 12は，「家の人から言われて勉強を始めるのが好き」の理由を整理したものである．中学生では「自分でやろうとしてもできないから」「勉強に無関心だから」「だらだら勉強をしなくていい」「言われなければやらなくて済むから」「勉強しないから」などで，勉強の開始に対する自己効力感の不足や勉強の意欲の欠如が内容となっている．高校では「言われないとやる気がでない」「言われてからやっとやる」「うるさいから」「言われればやるから」「ひとに言われると責任感がでる」「励ましてもらえる」などが見られる．

Table 13は，「自分から勉強を始めるのが好き」の理由を整理したものである．中学では「やる気がでる」「家の人に言われると嫌になる・頭にくる」「家に人に言われるとやる気がでない」「気分よく勉強ができる」「勉強は自分でやるもの」「親はうるさい」「人に何か言われるのは嫌」「好きなときにで

Table 12　「家の人から言われて勉強を始めるのが好き」の理由：頻度

＜中学生＞	
自分からやろうとしてもできないから	7
自分が勉強に無関心すぎるから	1
だらだら勉強をしなくてよいから	1
言われなければ勉強をしなくて済むから	1
勉強はしない	1
＜高校生＞	
言われないとやる気がでない	2
言われてからやっとやる	1
うるさいから	1
言われればやるから	1
人に言われると責任感がでる	1
励ましてもらえる	1
いつものことで，やめられないから	1
なんとなく	1

Table 13　「自分から勉強を始めるのが好き」の理由：頻度（3以上）

＜中学生＞	
やる気がでる	75
家の人に言われると嫌・頭にくる	39
家の人に言われるとやる気がなくなる	28
気分よく勉強できる	18
勉強は自分の意志でやるもの	18
親はうるさい	16
人に何か言われるのは嫌	16
好きな時にできる	14
自立できる	8
怒られずに済む	7
自分のためになる	6
言われてやるよりはよい	4
その他	11
＜高校生＞	
家の人に言われるとやる気がなくなる	60
やる気がでる	41
親はうるさい(うるさく言われなくて済む)	27
好きな時にできる	22
言われてするのは嫌い	22
自分のため(こと)だから	21
勉強は自分からやるもの	18
集中できる	12
その他	8

きる」などで，自由を求めたり自己決定のポジティブな結果を期待する判断が主な内容となっている．一方高校でも，「家に人に言われるとやる気がなくなる」「やる気がでる」「家族はうるさい」「好きな時にできる」「言われてするのは嫌い」「自分のためだから」「勉強は自分でやるもの」「集中できる」などであり，中学とほぼ同じような内容になっている．

6）家での学習の開始の自己決定の良し悪し

家で勉強を始めるときは，どちらのほうが良いことと思いますか．
①家の人に言われて勉強を始めるほうが良いことと思います．
　そのわけ（　　）
②自分から始めようと思って，勉強を始めるほうが良いことと思います．
　そのわけ（　　）

Table 14は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 14　家での勉強の開始の自己決定の良し悪しの学年別結果：人数と（%）

	①人に言われてするのが良い	②自分から開始するのが良い
中1年	3 (1.8)	168 (98.2)
中2年	1 (0.6)	180 (99.4)
中3年	3 (1.8)	167 (98.2)
高1年	4 (2.5)	155 (97.5)
高2年	5 (5.9)	80 (94.1)
高3年	1 (1.3)	76 (98.7)

$x^2=8.90$　$df=5$　$p>0.05$

ア　「家の人から言われて勉強を始めることが良い」とする生徒は極めて少なく，高校2年の約6％を除くと，全体として中学・高校の各学年とも約1，2％である．

イ　他方，「自分から勉強を始めることが良い」とする生徒は，学年によって大きな変わりはないが，高校2年の約94％を除くと，中学・高校とも約98％になっている．

Table 15は，「家の人から言われて勉強を始めることが良い」の理由を整理したものである．中学生では「人に言われないとやらない」「やりたいと思う時が少ないから」「勉強をしない」などであり，高校では「言われないとやる気になれない」である．

Table 16は，「自分から勉強を始めることが良い」の理由を整理したものである．中学生では「やる気がでる」「身につく」「自主的だから」「人に言われてやるよりも気持ちがいい」「自分のため」「習慣がつく」「親に言われるとやる気をなくす」「自分のことだから」「自立できる」などであり，一方高校で

Table 15　「家の人に言われてするのが良い」の理由：頻度

＜中学生＞	
人に言われないとやれない	3
自分からやりたいと思う時が少ないから	1
勉強をしない	1
なんとなく	2
＜高校生＞	
人に言われないとやる気になれない	1

Table 16　「自分から勉強を始めるのが良い」の理由：頻度（5以上）

＜中学生＞	
やる気がでる	51
身につく	26
自主的だから	23
人に言われてやるよりも気持ちがいい	20
自分のため	18
習慣がつく	15
親に言われるとやる気をなくすから	15
自分のことだから	12
自立できる	9
家の人に迷惑を掛けない	7
計画的にできる	5
当たり前	5
特になし・なんとなく	27
その他	15
＜高校生＞	
やる気がでるから	44
自分のこと（ため）だから	42
自主的にやる方がよいから	21
人に言われるよりもよい	15
人に言われるとやる気がでない	16
集中できる	12
好きな時・好きな勉強ができる	11
勉強が身につく	8
自立するため	7
当たり前	7
家族がうるさい（うるさくなくて済む）	5
積極的にできる	5
なんとなく	7
その他	15

は「やる気がでる」「家族がうるさくなくなるから」「自分のこと（ため）だから」「自主的にやる方がよいから」「人に言われるよりもよい」「好きな時・好きな勉強ができる」「勉強が身につく」などで，どちらも共通して自由を求めたり自己決定のポジティブな結果を期待する判断が主な内容となっている．

7）学級の係りの自己決定

学級で係りを決めるとき，あなたはどちらのほうですか．
①学級で決まった係りを引き受けるほうです．
②自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して学級に申し出るほうです．

Table 17は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 17　学級の係りの自己決定の学年別結果：人数と（%）

	①学級に任せる	②自分で考えた係りを申し出る
中1年	30 (17.3)	143 (82.7)
中2年	37 (20.1)	147 (79.9)
中3年	34 (19.9)	137 (80.1)
高1年	68 (42.2)	93 (57.8)
高2年	35 (38.9)	55 (61.1)
高3年	23 (28.8)	57 (71.3)

$x^2=42.99$　$df=5$　$p<0.01$

ア　「学級で決まった係りを引き受ける」生徒は，中学の1～3年で約20%であるが，高校では1・2年で約40%，3年で約30%である．その割合は中学生よりも高校で上がっている．

イ　他方，「自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して申し出る」生徒は，中学の1～3年で約80%であるが，高校では1・2年で約60%，3年で約70%である．高校生は，中学生よりも少し割合が減少している．

8）学級の係りの自己決定の選好

学級で係りを決めるとき，あなたはどちらのほうが好きですか．
①学級で決まった係りを引き受けるほうが好きです．
　そのわけ（　　）
②自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して学級に申し出るほうが好きです．
　そのわけ（　　）

Table 18は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

ア　「学級で決まった係りを引き受けるほうが好き」

Table 18　学級の係りの自己決定の選好の学年別結果：人数と(%)

	①学級に任せるのが好き	②自分で考えた係りを申し出るのが好き
中1年	25 (14.5)	148 (85.5)
中2年	24 (13.0)	161 (87.0)
中3年	23 (13.7)	145 (86.3)
高1年	59 (36.6)	102 (63.4)
高2年	18 (20.2)	71 (79.8)
高3年	18 (23.1)	60 (76.9)

$x^2=42.17$　$df=5$　$p<0.01$

な生徒は，中学の1～3年で約14%であるが，高校では1年で約35%，2・3年で約20%である．その割合は中学よりも高校で上がっている．これは，前問に対するTable 17の結果と，ほぼ対応している．

イ　他方，「自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して申し出るほうが好き」な生徒は，中学の1～3年で約85%であるが，高校では1年で約60%，2・3年で約75～80%である．高校生は，中学生よりも少し割合が減少している．これも，前問に対するTable 17の結果と，ほぼ対応している．

Table 19は，「学級で決まった係りを引き受けるほうが好き」の理由を整理したものである．中学生では「楽である」「学級の係りはどれも重要」「別にやりたい係りがないから」「決まった係りで十分だから」などであり，高校生では「めんどうくさい」「特にやりたい係りがない」「楽だから」「やる気がないから」「言われたらやる」などである．努力回避的，無気力的，受け身的な内容が見られる．

Table 19　「学級で決まった係りを引き受けるほうが好き」の理由：(頻度)

＜中学生＞	
楽である	15
学級で決める係りはどれも重要	2
別にやりたい係りがないから	2
決まった係りで十分だから	2
そういう性格だから	1
自信がないから	1
好きな係りでやらないこともあるから	1
その方がやりやすいから	1
どんな仕事でも頑張りたい	1
みんなでやるのが好きだから	1
頼られている感じがする	1
特になし・なんとなく	4

＜高校生＞	
面倒臭い	14
特にやりたい係りがない	11
楽だから	6
やりたくないから	2
言われたらやる	2
係りの取り合いをしなくて済むから	2
意見をいうのは苦手	2
たまに係りをしなくて済む	2
その方がやりやすい	1
自信がない	1
いろいろな係りができる	1
勝手に決めてくれる	1
任されて責任感がでる	1
なんでもできる	1
特になし・なんとなく	6

Table 20は，「自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して申し出るほうが好き」の理由を整理したものである．中学生では「やる気がでる」「やりたいものになれる」「いやなものをやりたくない」「やりたいものをやった方がよい」「責任をもってできる」「続けられる」「人にやらされるが嫌」などであり，高校生でも「自分のやりたい係りができる」「やる気が出る」「嫌な係りはしたくない」「自分で決めた方がよい」「責任感がもてる」「勝手に決められるは嫌」などであり，共通して自由を求めたり自己決定のポジティブな結果を期待する判断が主な内容となっている．

Table 20　「自分で考えた係りを申し出るのが好き」の理由：頻度(3以上)

＜中学生＞	
やる気がでる	46
やりたいものになれる	44
嫌なものはやりたくない	35
やりたいものをやった方がよい	33
責任を持ってできる	12
続けられる	9
人にやらされるのが嫌	7
そうじゃないと楽しくない	7
自分にあったものをやるべき	7
自分の意見を言える	5
納得がいく	4
自主的だから	3
自分で決めることだから	3
その他	10
特になし・なんとなく	11

＜高校生＞	
自分のやりたい係りができる	47
やる気がでる	31
嫌な係りはしたくない	22
自分で決めた方がいい	9
責任感がもてる	8
勝手に決められるのは嫌	6
納得がいく	5
楽しくできる	5
やりがいがある	3
押しつけられたくない	3
その他	10
なんとなく	6

9）学級の係りの自己決定の良し悪し

学級で係りを決めるとき，あなたはどちらのほうが良いことと思いますか．
①学級で決まった係りを引き受けるほうが良いことと思います．
　そのわけ（　　）
②自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して学級に申し出るほうが良いことと思います．
　そのわけ（　　）

Table 21は，上記の質問に対する学年別の回答を示す．この表から次のことがわかる．

Table 21　学級の係りの自己決定の良し悪しの学年別結果：人数と（%）

	①学級に任せるのが良い	②自分で考えた係りを申し出るのが良い
中1年	10（5.9）	160（94.1）
中2年	14（7.8）	166（92.2）
中3年	7（4.2）	160（95.8）
高1年	28（17.6）	131（82.4）
高2年	8（9.3）	78（90.7）
高3年	13（16.5）	66（83.5）

$x^2=25.26$　$df=5$　$p<0.01$

ア　「学級で決まった係りを引き受けるほうが良いこと」と思う生徒は，中学の1～3年で約4～8％であるが，高校では2年が約10％であることを除くと，1年と3年で約15％である．その割合は中学生よりも高校で上がっている．これは，前々問に対するTable 17や前問のTable 18の結果と，ほぼ対応している．

イ　他方，「自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して申し出るほうが良いこと」と思う生徒は，中学の1～3年で約92～96％であるが，高校では2年が約90％であることを除くと，1年と3年で約80％である．高校生は，中学生よりも少し割合が減少している．これも，前々問に対するTable 17や前問のTable 18の結果と，ほぼ対応している．

Table 22は，「学級で決まった係りを引き受けるほうが良い」の理由を整理したものである．中学生では「楽である」「学級の係りはどれも重要」「別にやりたい係りがないから」「決まった係りで十分だから」などであり，高校生では「めんどうくさい」「いつまでも決まらないから」「平等だから」「意欲がないから」などである．努力回避的，無気力的，受け身的な内容が見られる．

Table 22　「学級で決まった係りを引き受けるのが良い」の理由：（頻度）

＜中学生＞	
早く決まる	5
決められるほうがいい	3
学級のため	2
係りが増えるから	2
違う係りを考えずに済む	1
やりたい係りがない	1
頼られている	1
＜高校生＞	
面倒臭くない	6
いつまでも決まらないから	2
意欲がないから	2
平等だから	1
まちがった係りをやりたくない	1
決められたらやる	1
もめるのはいや	1
余りものでいい	1
簡単だから	1
やりやすい	1
残りものをやらずに済むこともある	1
なんとなく	5

Table 23は，「自分がやってみたかったり，自分に合っていたりする係りを自分で判断して申し出るほうが良い」の理由を整理したものである．中学生では「やる気がでる」「やりたいものをやった方がよい」「責任感がもてる」「やりたくない係りは嫌」「自分の意見を言う」「好きなものになれる」「人に何かやらされるは嫌」「自分の意見を言うのはよい」などであり，高校生でも「やる気がでる」「自分のことは自分で決める」「責任感がでる」「嫌な係りはしたくない」「自分のやりたい係りができる」「自分

Table 23　「自分で考えた係りを申し出るのが良い」の理由：頻度（3以上）

＜中学生＞	
やる気がでる	43
やりたいものをやった方がいい	31
責任感がもてる	31
やりたくない係はいや	25
自分の意見を言うのがいい	16
好きなものにうなれる	9
納得がいく	4
意欲が感じられる	3
判断力がつく	3
その他	9
特になし・なんとなく	16
＜高校生＞	
やる気がでる	37
自分のことだから自分で決める	19
責任感がでる	16
嫌な係りはやりたくない	17
自分のやりたい係りができる	12
自分の意見を言った方がいい	11
積極的でいい	11
うまくいく	6
すんなり決まる	6
やりたいことができる	6
押しつけられるのはいや	5
楽しくやりたい	3
その他	9
なんとなく	2

の意見をいった方がよい」「積極的だからよい」などであり，共通して自由を求めたり自己決定のポジティブな結果を期待したり，積極的な態度をよしとする判断が主な内容となっている．

考　察

小学生のデータを加えながら，以下のことにコメントしていきたい．

1）「朝の起床」の自己決定：Fig. 1は前調査の小学校1年～6年までの結果を加えた「朝の起床」の学年変化を示している．「家の人に起こされる」子どもの割合は，小学校低学年の約50％とくらべ中学・高校生は約30％と，いくぶん減少しているものの，急激な減少傾向は見られていない．他方，「自分から起きようと思って起きる」子どもの割合も，小学校低学年の約20％とくらべ中学・高校では約20～30％と，ほんの少し増大しているものの，急速の増加傾向は見られない．またFig. 1は，小学校・中学校を通じて「家の人に起こされる」子どもの割合のほうが「自分から起きようと思って起きる」子どものよりも高く，高校に至ってようやく両者の割合が約30％と同じ程度になっていくことを示している．Table 6に見られたように，「家の人に起こされるのが好き」な理由の中で，中学生・高校生において最大数を占めたのは「自分では起きられないから」という理由であった．家の人の指示や命令，合図のもとに小学校6年間の毎日起こされ続けるという経験を繰り返すなかで，「起こされること」が習い性になり，「自分の意志で起床すること」への無力感が強固に形づくられてしまっていると考えられる．

小学校低学年では，「朝の起床」よりも「着替え」

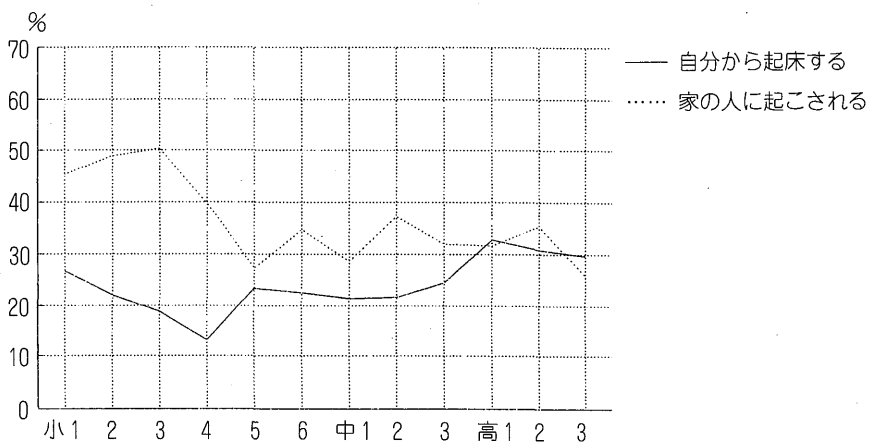

Fig. 1　朝の起床の自己決定の学年の変化

のほうが自己決定行動全般に高い相関を示していたが，小学校高学年では「朝の起床」が生活や学習場面の多くの自己決定と相関関係を示していた．中学・高校では「自分の意志で起床すること」が自己決定や主体的な生き方の基本的かつ必要欠くべからずの行為として捉えられることが多い(平井,1995)．つまり，一日の生活行動プログラムを計画的・主体的に行っていくためには，「自分の意志で起床すること」が重要な位置を占めていると考えるのである．こうした観点から見ると，本調査結果は，現在の少なからぬ子どもたちが，基本的に親の厚い保護の世界のなかで毎日の生活を「ぬくぬく」と過ごしていて，自分の意志の力で生活や人生と直接取り組んでいないことを示していると考えられる．

2)「家での勉強の開始」の自己決定：Fig. 2は小学1年～6年間での結果を加えた「家での勉強の開始の自己決定」の学年変化を示している．小学校3年までは「家の人に言われて開始する」子どもの割合が「自分からしようと思って開始する」子どもよりも少しだけ多いが，小学校4年で逆転し，4年生以降は「家の人に言われて開始する」子どもは少しずつ減少し，反対に「自分からしようと思って開始する」子どもはかなりの増加傾向を示していっている．とりわけ，中学3年では高校受験の直前という時期との関係もあり，「自分からしようと思って開始する」子どもの増加ぶりが目立つ．

このように小学校4年生ぐらいから「自分からしようと思って勉強を開始する」行動が増加し，中学3年以降では約半数以上の生徒がそうした行動がとれるようになる．このことは，家での勉強の開始の自己決定について子どもたちが健全な発達をとげているかのように見える．しかし，Table 13の「自分から勉強を始めるのが好きな」理由を見ると，中学生・高校生とも「家の人に言われるのが嫌だから」「親がうるさいから」などが上位を占めているように，親の叱責や注意を予め避けるために自分から勉強を始める姿も，一部とは言え，見えてくる．子どもの学習動機の発達は，第1段階…賞を求め罰を避ける学習動機，第2段階…規範意識から生じる学習動機，第3段階…自己目標から生じる学習動機の3つの段階にそって進展していくと仮定できる(新井,1995)．この観点からすると，形(行動)のうえでは勉強の開始の自己決定をしているように見えるが，その意識(動機)のうえでは他者決定からあまり抜け出していないケースも存在すると言えよう．子どもの自己決定の外形(行動面)だけを見て，親や教師は判断するのではなく，その心の内面にまで関心を持ち，真の自己決定に進展していくように援助をしていくことが必要であろう．

3)「学級の役割を決める時」の自己決定：Fig. 3は小学校4年～6年生の結果を加えた「学級の役割の自己決定」の学年変化を示している(小学校1～3年ではこの調査を行っていない)．小学校では「自分のやりたい係りを考えたて申し出る」よりも「学級で決まった係りを引き受ける」ほうがはるかに多いが，中学生になると，大きく逆転し，「自分で判断した係りを申し出る」割合が大幅に増大している．高校では少し減少するものの，「自分で判断した係りを申し出る」割合は多い．

学級の係りを自己決定する際，子どもの葛藤には

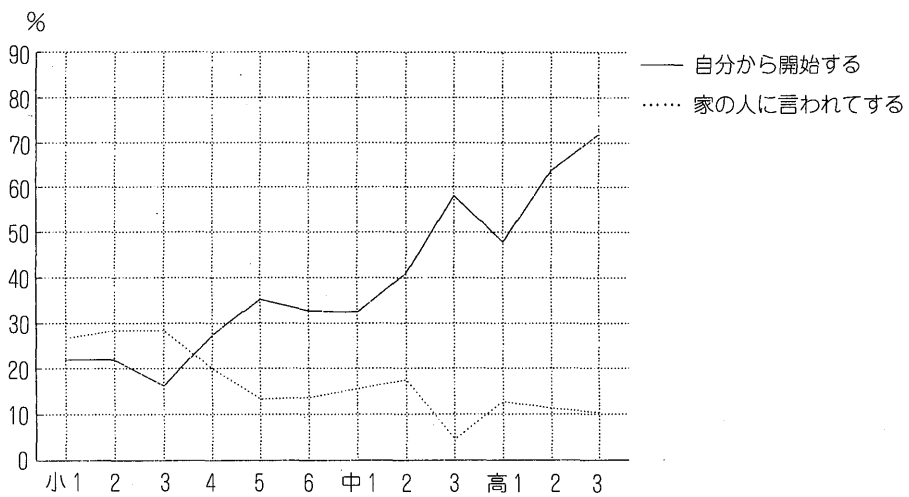

Fig. 2　家での勉強の開始の自己決定の学年の変化

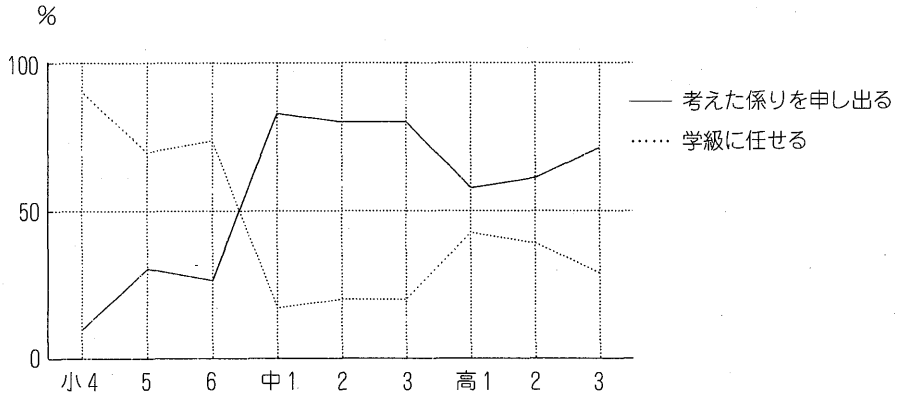

Fig. 3　学級の係りの自己決定の学年比較

様々なものがると考えられる.「自分のやりたい係りをやって学級に貢献したい，認められたい」「自分のやりたい係りのほうがやる気になったり，責任感がでるので，やるなら，やりたい係りをやりたい」「楽な係があるので，やらなければいけないとしたら，その係りをやりたい」「やりたくない係りもあるので，それを避けるために，あらかじめそれ以外の係りに決まりたい」「なるべく楽をしたいので，できれば係りを引き受けなくて済むのがいい」などの思いのもとに自己決定していると推測される．これらのことを念頭に置いて，Table 19の「学級で決まった係りを引き受けるほうが好き」の理由を見ると，中学生・高校生は「その方が楽だから」「面倒くさいから」「特にやりたい係りがないから」などの理由が多く，努力や責任感を伴った自己決定を回避しようとする傾向が見られる．また，Table 20の「自分で考えた係りを申し出るのが好き」の理由では，「やる気になるから」「やりたい係りになれるから」「責任をもってできるから」など，積極的な内容のほかに，「いやなものはやりたくない」「人にやらされるのは嫌」といった「わがまま」な内容も目立つ.

自己決定と「わがまま・自分勝手」との境界線がむずかしいと言われるが，形のうえだけの子どもの自己決定を尊重すると，自己決定が「わがまま」や「自分勝手」の大義名分として利用される恐れ無しとは言えない．そのためにも，子どもの内面である意識や判断の内容にまで踏み込んだ自己決定の在り方を研究していくことが重要だと考えられる.

要　約

中学1年生～3年生，高校1年生～3年生を対象にして「自己決定の経験と意識」を質問紙によって調査した．質問紙で取り上げた自己決定の場面は，「朝の起床」「家での学習の開始」「学級の係り」の3場面であった.

本調査の主な結果は，次のようなものである.

1)「朝の起床」については，「家の人に起こされる」生徒は中学で30～40%，高校でも約25～35%を占め，一方「自分から起きようと思って起きる」生徒は中学で約20～25%，高校でも約30%にすぎない．なお，朝，子どもを起こす時の家の人の言葉は，中学生・高校生とも「起きなさい」といった指示・命令的なものが約60%であった.

2)家での勉強について，「家の人から言われて始める」生徒は中学1・2年で約15%，中学3年で5%，高校では各学年とも約15%である．一方，「自分から始めようと思ってする」生徒は中学1年で約30%，中学2年で約40%，中学3年で約60%，高校では1年で約50%，高校2年では約65%，高校3年では約70%である.

3)学級の役割を決める時，「自分がやってみたかったり，自分にあっていたりする係りを自分で判断して申し出る」生徒は，中学1～3年で約80%であるが，高校では1・2年で約60%，3年で約70%であった.

[付記]

本研究を作成するにあたり，筑波大学心理学系助手の谷島弘仁氏の協力を得た．厚く感謝を申し上げる.

引 用 文 献

Angyal, A. 1941 *Fondations for a science of personality.* Commonwealth Fund

新井邦二郎　1992　幼児の主体性の教師評定尺度の作成（1）　筑波大学心理学研究　第14号　61～74.

新井邦二郎　1995　やる気はどこから生まれるか－学習意欲の心理－　児童心理臨時増刊号『やる気を高める本』　3-11.

新井邦二郎　1996　小学生の自己決定経験の調査　筑波大学心理学研究　第18号　75～95.

deCharms, R. 1968 *Personal causation.* Academic Press

deCharms, R. 1984 Motivation enhancement in educational settings. In R. Ames & C. Ames (Eds.) *Research on Motivation in Education.* Vol. 1 Academic Press

Deci, E. L. 1975 *Intrinsic Motivation.* Plenum Press（安藤延男・石田梅男訳　1980　内発的動機づけ　誠信書房）

Deci, E. L. 1980 *The psychology of self-determination.* D. C. Heath（石田梅男訳　1985　自己決定の心理学　誠信書房）

Deci, E. L. & Ryan, R. M. 1985a *Intrinsic motivation and self-determination in human behavior.* Plenum Press

Deci, E. L. & Ryan, R. M. 1985b The general causal orientations scale: self-determination in personality. *Journal of Research in Personality,* **19,** 109-134.

平井雷太　1995　「～しなさいと言わない教育」　日本評論社

Ryan, R. M. 1992 Agency and organization: intrinsic motivation, autonomy, and the self in psychological development. In J.E.Jacobs (Ed.) *Nebraska Symposium on Motivation: Developmental Perspective on Motivation.* The University of Nebraska Press

山地弘起　1988　動機づけにおける自己決定性の検討　東京大学教育学部紀要　第28巻　317～325.

－1996. 9. 30. 受稿－